わが街わが故郷

株式会社高井精器とその周辺

1．会社の紹介

〒251-0021 神奈川県藤沢市鵠沼神明1-3-1

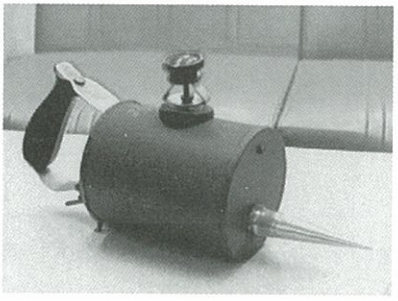
株式会社 高井精器

電話 0466(27)6201

商標登録

2．会社の歩み

明治39年 高井鉚橘 東京 芝に“電工舎”を創立。空気呼鈴・シグナルベル・電気殺虫器など独自の発明品を製造販売



電気殺虫器

大正14年 日本精工株式会社からの委託を受けて、自動調心型ベアリング保持器の国産化に初めて成功。以来一貫して高技術・高品質を目指し、保持器の専門メーカーとして歩み続けてまいりました。

昭和16年 本社・工場ともに神奈川県藤沢市に移転

昭和41年 創立60周年 株式会社高井精器と社名変更

昭和42年 中小企業合理化モデル工場として中小企業庁の指定を受け、以後30年間継続

昭和47年 神奈川県 伊勢原市に伊勢原工場を新設

昭和59年 中小企業合理化モデル工場の経営実績により、通産大臣賞を受賞

平成６年 中国上海市 松江県に上海高井精器有限公司を設立。資本金１億円

平成８年 創立90周年 上海高井精器 生産開始

平成14年 ISO14001認証取得

平成16年 ISO9001認証取得

3．周辺地域の紹介（藤沢市）

藤沢市は、南は相模湾に面し、北は相模原台地の緩やかな丘陵が続く気候温暖な自然環境に恵まれた町です。

中世に遊行寺の門前町として始まり、江戸時代には東海道五十三次の一つ、藤沢宿として、また江の島詣の足場として発展してきました。

当時の様子は、浮世絵などで窺い知ることができます。

歌川広重 作 東海道五十三次より「藤澤（遊行寺）」

広重は、大鋸橋とその下を流れる境川を描いています。鳥居は、藤沢宿から江の島参りに向かう「江の島道」の入口を表わす第一鳥居です。後の石段をもつ寺は、時宗の大本山遊行寺です。

現在の遊行寺

藤沢は昭和15年に市制を敷いて以来、周りの町や村を編入しながら、現在では面積69.51平方キロメートル、人口は約39万人を超える都市として発展を続けています。

東京からほぼ50kmに位置し、JR東海道線、小田急江ノ島線、江ノ島電鉄、湘南モノレール、そして相鉄いずみ野線、横浜市営地下鉄が乗り入れるなど、交通にも大変恵まれています。

69.51平方キロメートルの市域のうち、67％を市街化区域面積、33％を市街化調整区域面積としています。藤沢市の用途地域は住居系地域が77.7％であり、そのうち第１種低層住居専用地域が46.9％で、良好な住宅都市としての性格を強く現わしています。

一方、内陸部には優れた工業団地が形成されているほか、商業地域には近代的な商業集積が年々高まってきています。江の島をはじめ、片瀬・鵠沼・辻堂海岸に毎年多くの観光客が訪れる観光都市でもあります。また市内には日本大学、湘南工科大学、慶應義塾大学、湘南国際女子短期大学の４大学が設置されており、学園文化都市としても発展を続けています。

４．周辺地域の紹介（湘南の歴史）

藤沢市が位置する地域は、湘南と呼ばれます。湘南とは、相模の国の南という意味で、本来は「相南」となるところですが、中国東南内陸部の湖南省洞庭湖の南岸にある「瀟湘湖南」（しょうしょうこなん）の景勝にあやかり、「湘南」と名付けられました。

いつごろからこれが使われるようになったのかははっきりしていませんが、神奈川県中郡大磯町にある、西行法師が旅の途中に歌を詠んだという鴫立庵の碑に「著蓋湘南清純地…」と書かれてあります。年代は1664年ですので、すでに江戸期には使われていたことがわかります。しかし、一般的には明治以降から多く使われるようになったと考えられています。

「湘南」の呼称を世に広めたのは、1897年（明治30年）に東京から神奈川県逗子市へ越してきた徳冨蘆花（とくとみろか）で、彼は名作「不如婦」（ほととぎす）をあらわし、「湘南雑筆」などを収めた随筆「自然と人生」を発表して湘南の名を天下に広めました。

現在の若者がイメージする湘南は、映画「太陽の季節」に端を発するといってもよいでしょう。今や東京都知事を務める石原慎太郎氏の第34回芥川賞受賞作品が映画化されたのは、1956年の

ことでした。

1957年、湘南海岸公園が開かれると、翌年、江ノ島の石段が電動となり、「東洋一」というふれこみで大勢の観光客が集まり、江ノ島は一気に観光地として全国区となります。

1958年、湘南海岸の夏の人出が初めて100万人を突破し、この勢いに乗じるように、翌年、藤沢市がマイアミ市と姉妹都市になりました。こうして、湘南海岸は東洋のマイアミビーチへの道を歩むこととなります。

この湘南ブームに乗って、1961年には加山雄三が芸能界にデビューを果たし、湘南ボーイのイメージキャラクターとして定着するようになりました。同じ年、ザ・ワイルドワンズの『思い出の渚』大ヒット。これを含めた加山系の音楽が湘南サウンドと呼ばれるようになります。

1970年、逗葉新道開通。翌年、大船～江ノ島間の湘南モノレールが開通し、沿線の住宅開発と地価上昇が促進されることになります。

このころより《湘南》の海は家族用からティーンズ用へと次第に変貌していき、『若者の街・湘南』というイメージが固定化し、あらゆる文化がその傾向を見せ始めました。その頂点に立ったのが、1978年のサザンオールスターズの登場です。『勝手にシンドバッド』の発表。この曲のヒットもあり、湘南人気が藤沢片瀬の西浜から、茅ヶ崎海岸あたりに移りはじめました。また、中年以上の人しか知らなかった『烏帽子岩（えぼしいわ）』が若者の間でも有名になりました。

翌年にはその江ノ島で、後にも先にもこれっきりのロックコンサートが開催され、東京オリンピック以来久しぶりに江ノ島ヨットハーバーが人の波で埋めつくされました（筆者も、ビーチボーイズやサザンオールスターズを見たことを記憶しています）。

1990年には、映画『稲村ジェーン』がヒット。

長い間、この地域のナンバープレートは「相模」でしたが、1994年には、多くの人の要望により「湘南」ナンバーが開設されています。

また、2002年、藤沢、平塚、茅ケ崎の三市と寒川、大磯、二宮の三町が参加する「湘南市」構想が首長から発表されましたが、白紙撤回され、「湘南市研究会」も解散しています。

（株式会社高井精器　高井　航）